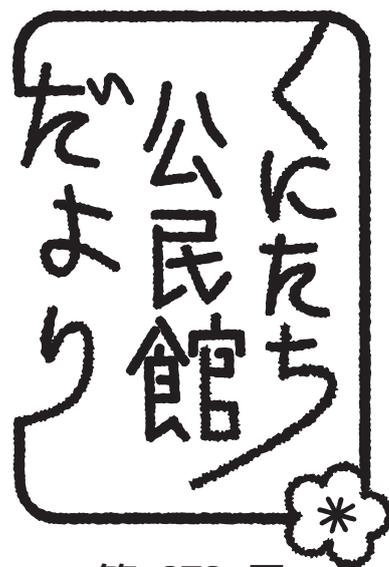


(1)



第 673 号
2016年 3月5日
(平成28年)

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

知識が感受性を育てる

〈講座参加者の声〉

図書室のつどい

いま、大学で何が起きているのか に参加して

橋本恭子（一橋大学言語社会研究科特別研究員）

昨年の11月29日、国立市公民館「図書室のつどい」で、名古屋大学大学院の日比嘉高先生による講演「いま、大学で何が起きているのか」を拝聴した。2015年に入ってから音量を増した大学の人文系学部軽視の聲に、私自身、文学研究者の端くれとしてかなり敏感になっていたが、実際は断片的な情報に憤懣を覚えるばかりで、これといった行動は起こせずにいた。そんなとき、この講座を教えていただき、すぐに飛んで

いったのだが、まずはこれを企画してくださった国立市公民館職員の皆様へ感謝したい。同公民館では時代の要請に応える優れた講座を度々企画されているが、今回も非常に充実した内容であった。日比先生のお話しは問題点が整理されていてとてもわかりやすく、国立大学の教員養成系・人文系社会学部大学院の廃止転換の声が出てきた背後に、新自由主義的な経済思想があり、日本の大学教育全体が経営的観点から解体・再編成

されようとしていることが、よくわかった。配布資料に引用された大学改革論者たちの、「役に立たない学問」は実践的で有用なものに変えるべしとする功利主義的な発想には義憤を禁じえなかったが、一方で、各界からのそれに対する反論も十分引用されており、実際、経団連でさえ人文系学問を軽視していないという。人文系の学問に

は知的な「種」をまき、「伸びしろのある人」を育てるといふ重要な役割があり、その点が産業界からも期待されているからだ。そこで日比先生は、大学対文科省・経済界・一般社会、あるいは文系対理系といったわかりやすい二分法に陥る愚を避け、敵を作ることなく、「開かれた知」の担い手としての大学のありようを、共に考えていこうと提起し、締めくくりとされたのであった。

お話を聞きながら思ったのは、近代日本文学の研究者として、誰にでもわかりやすい言葉で、現在の問題点を社会構造の点から説き起こし、単純な善悪二元論に落とし込むことなく、人文系学問の可能性を示唆するといった日比先生のお話そのものが、人文系学問の存在意義を生きた形で示す優れた見本になっている、ということだ

「故郷」とはいかなる場所か？

『苦海浄土 わが水俣病』と流民の故郷 に参加して

山地晴義

この講座は一橋大学大学院の大学院生が自らの研究を講座として市民に伝えていくという大学院生講座で、公民館はその懸け橋となるというユニークな試み。ということあまり深く考えず、水俣や

あった。このように鋭い批評性や明確な論理性を養成し、現代社会が直面する諸々の難題を構造化・言語化し、それに対処する力を培うことが、人文系の学問には可能なのだ。絶望が希望に変わった瞬間であった。日比先生のお話しには、「今後の大学教育のあり方について、あなたならどう考えますか」という問いかけが含まれており、それを受けて、私自身、この問題を考えて、言葉にしていくことが、この講演に参加した者の義務であると思った。先生のご著書『いま、大学で何が起きているのか』（ひつじ書房、2015年）にもあるとおり、それはまた、この社会の構成員ひとりひとりが考え、互いに議論していくべき課題でもある。同書を合わせて読まれることを強くお勧めしたい。

石牟礼道子に関心をもっているという理由で参加してみた。石牟礼道子の『苦海浄土 わが水俣病』をテキストに「故郷」について考えていくという内容。講師は言語社会研究科の番園寛也さ



大学で何を学ぶか



水俣に住む汐の声を聴く

ん。
水俣病という被害を背負った水俣の人たちにとって水俣とは故郷であり、病を被った場所でもあり、広く世間ではその原因となったチツソの「企業城下町」でもある。そういえば、水俣病という病名をめぐって「水俣」という名前を変えてくれないかという声があつたことを聞いたこともある。故郷に居ながらにして、出郷を遂げざるを得ない人々の思いでもあろう、それを右牟礼道子は「故郷とは、もはやあの、出奔した切ない未来である(『苦海浄土 わが水俣病』講談社文庫、1972年302頁)と表現する。「故郷」でありながら「逃げ出したい」「逃げ出せない」土地水銀に汚されながらも、海や山の豊かな自然を抱え込んだ土地、水俣という地をめぐる水俣の人々の

様々な思いを『苦海浄土』という石牟礼作品をテキストに考えていく、思いを馳せていく、そんな講座だったと思う。参加者による質疑応答の中で、『苦海浄土』というタイトルをめぐってのやりとりは興味深かった。「苦海」でもあり「浄土」でもある地なのか、「苦海」であるがゆえに「浄土」なのか。大勢で考え合う事の面白さはここにある。私は昨年、20数年ぶりに水俣を訪れた。水銀とヘドロで汚されていた水俣港はきれいに埋め立てられ環境に優しいエコパークという大きな公園になっていた。それでも海も山も昔のままに美しかったし、豊かだと思った。石牟礼道子が、水俣病患者の言葉や作品『苦海浄土』として私たちの前に差し出したように、研究者もその研究成果を市民に伝えてくれるこうした場はとてめありがたい。でも、研究者からその研究内容をその専門の言葉や概念(きつと、それは思索の経緯そのものなのだろうと思う)はそのままだまに話されてもわからない(実際講座の中でもそういう場面がありました)こともある。きつと、番園さんはアンケートとかに「あの言葉は難しい」とか書かれたような気がする(笑)。伝わる言葉で、伝えられることはとても大切だ。

若い研究者を見守りながらも、育てていく、そんな市民の温かいまなざしを感じる場で、若き研究者にとつては修業のような場所かもしれない。きつとこうした「稽古」をいっぱい体験して一人前の研究者になっていくのだろうか。と、えらそうに書いてしまったが、私にとっては刺激的な、いろいろなことを考えさせられる講座だった。水俣病は今年、公式確認60周年を迎える。番園さんは、2013年10月の水銀条約外交会議での安倍首相のメッセージや、天皇皇后の水俣訪問等と水俣病を解決済みとしようとする水俣病事件のナショナルヒストリー化について言及されていた。私にとつては眼からウロコの視点だった。水俣病は終わっていない、改めてその思いを強く持った講座だった。

これまでの大学院生講座のテーマ

- ・ 映画の音響効果学
—見えない声から何が見える?—
- ・ 建築と映像—光と影から見る建築—
- ・ 世にも奇妙な小津映画
—揺れない列車と鳴り続けるピアノ—
- ・ テレビに宇宙人がやってきた!
—初期ウルトラシリーズから迫る
“本格特撮テレビ映画”の正体
- ・ 救いをもたらすのは一体誰?
—オペラにおけるフィナーレの変遷

〈社会教育学習会〉

学びの自由と民主主義のいま
～さまざまな意見をもつ市民の対話に向けて～

講師 佐藤 一子 (東京大学名誉教授)

埼玉県さいたま市では、市民団体の句会が選出した憲法9条を守れと訴えたデモを詠んだ俳句が「公民館だより」への掲載を公民館に拒否される出来事がありました。現在裁判でその是非が争われており、社会教育や公民館の本質、市民の学習権の内実が問われているといえます。

この問題にさいたま市民として関わり、現在国分寺市公民館運営審議会委員長も務める佐藤さんに、問題の背景を伺いながら、民主主義社会における学びの自由やさまざまな意見をもつ市民の対話のあり方を考えます。

とき 3月15日(火)夜7時～9時
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)
※申し込みは不要です。ご自由においでください。
※この学習会は公民館運営審議会委員との共同企画です。

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

幼児も楽しめる
「安心安全」科学実験遊び !!

遊びの中で、科学実験を楽しんでみませんか?
キッチンにある素材を使い、「安心安全」「低コスト」な驚きの科学実験をして遊びましょう。



講師 山田 修平
(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 3月13日(日)朝10時～12時
ところ 公民館 地下ホール
定員 子ども(3歳から小学生まで)と保護者
15組(申込先着順)
申込先 3月8日(火)朝9時～
公民館 ☎(572)5141

60人の声

— 公民館60周年に寄せて④ —

公民館60周年にちなみ、公民館に縁のある60人の市民・関係者による、公民館へのメッセージ集の連載です(掲載順不同)。

●緑化ボランティアで：

小原正子(公民館利用者連絡会)

「緑のカーテンと一緒に造りませんか？」との公民館だよりの記事に誘われ、夫と参加しています。「緑のカーテン」は期待していたような成長は無く、3年目からは絹さやなどに変更して皆で収穫を楽しんでいます。可憐な花なのにあまりに強いドクダミや笹を撃退することが出来、植え込みのつっじも元氣を取り戻しました。

永い間お世話になっている公民館への感謝の気持ちも込めて、館長さんや仲間と一緒に楽しく草木と対話をしています。植物に興味ある方、一緒に楽しみませんか？

●公民館は宝の山

平アイ子(英語ティベートの会)

こんな御時世、英語くらいしゃべれた方がいいかなと思っても、金がない、場所がない、チャンスがない。ところが公民館がすべて解決してくれた。以来30年、週一回3時間、30年で数千時間これは凄い。気がついたらみんなバイリ

ンガルに。副産物として英語を通して国内外の情報に詳しくなった。いい事ずくめである。私の場合50歳になるまで公民館の事を知らなかった。こういう人は多いと思う。折角あるんだから何か始めてみては？ 公民館で。

●いつも身近な公民館

田中一嘉(公民館運営審議会委員)

私にとって公民館はいつも身近で大切な存在です。子どもの頃は常に大人が居る安全な場、トイレや給水器に幾度となく助けられました。学生時代には図書室で本を借りたり、ロビーは友人などと会話や勉強の場となったりしました。今後、仕事や育児が落ち着いた時には、本来の生涯学習の場として公民館を利用して頂きたいと思っております。今後70周年100周年と変わらぬ身近な場であって欲しいと願います。

●こころの避難所
間瀬英一郎(公民館運営審議会委員)
2011年3月11日、のちに東

日本大震災と呼ばれる大地震が日本列島を襲った。国立市も大きく揺れた。交通機関がストップし、帰宅困難者が発生した。公民館は急遽、一時避難場所となり、夜を明かして職員が対応に当たった。一人暮らしの私は余震を恐れ、自宅にいるよりも安心と思い、その手伝いをした。支援者の姿をした私もまた、実際は精神的な避難者であった。公民館の役割は数多くあるが、私にとっては「こころの避難所」でもある。

●公と民ががっちりスクラムを！

中山三平(近代思想研究会)

戦後の公と民との在りようは、戦前のような上下縦の関係ではなく横列びのものになりました。国立の公民館が時代の荒波を乗り越えてこれたのは、ひとえに公と民が民主主義を核として横列びにしつかり手を組んできたことによるものと考えます。

時代はさらに激しくゆらいでいます。公と民のスクラムはさらに強化されねばこの時代を乗り切ることはできません。これを支えるのは若い力です。道草を喰らっている余裕はどこにもないと思えます。期待しています。

●地域への関わりを問い続けて

コ・ミンジュ(一橋大学大学院生)

／喫茶わいがやスタツ)

私は公民館に関わってから2年になります。喫茶わいがやを中心に、地域の方々と同じ時間を共有することで、一層楽しい留学生生活を過ごしています。

一方では「外国人は投票権がないのに、なんで市民活動をしているの？」と聞かれたこともありました。この質問に対して、私は未だにはっきり答えられません。ただ、地域に関わらずしてその答えを見つけることはできない、それだけは確信しています。

●住民の図書館活動からの出発

和田正子(元公民館職員)

公民館創立の翌年に公民館図書室が誕生しました。青年サークル士曜会の図書1300冊と本棚5台を寄贈されたの出發でした。その後、図書室は独自の役割を持つて運営され、活動の根には「本を通した人のつながりをつくる」ことがありました。最近、各地でユニークな読書会が行われるなど、本から学ぶ、本を通した関係づくりに関心が持たれています。社会教育の場で行われているこの図書室の活動も、いま新たに光を当てて見直されてほしいと思います。

〈平和講座〉

グローバル経済とイスラーム過激派の台頭—チュニジア

講師 山中 達也(明治大学)

2011年初頭のチュニジア政変をきっかけにアラブ圏でおこった一連の民主化運動「アラブの春」。それ以後、唯一、民主化のプロセスに成功しつつあったチュニジアは、イスラーム過激派組織「イスラーム国」の最大3万1,000人といわれる外国人戦闘員を約6,000人と最も輩出する国となっています。なぜ今、若者たちは「イスラーム国」に参加するのか……。2006年から3年間チュニジアで暮らしていた若手の研究者である山中さんのお話を伺い、経済と社会の問題から考えます。

とき 3月19日(土) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室
定員 30名(申込先着順)
申込先 3月9日(水) 朝9時～
公民館 ☎(572) 5141

〈パラスポーツ体験講座第2弾〉

ボッチャを楽しもう!

～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～

講師 ボッチャ愛好会多摩ココナ

一緒に「ボッチャ」をしてみませんか? ボッチャとはイタリア語でボールを意味します。運動能力に障がいがある競技者向けに考案されたスポーツで、パラリンピックの公式種目にもなっています。本年開催のリオデジャネイロパラリンピック、さらには2020年の東京パラリンピックでのメダル獲得も期待される「ボッチャ」は、障がいの有無や年齢に関係なく、誰もが楽しめるスポーツです。この講座では、ボッチャ愛好会多摩ココナの皆さんを講師に迎え、ボッチャの魅力を感じます。



とき 3月20日(日)朝9時半～正午
 ところ 公民館 地下ホール 定員 15名
 持ち物 動きやすい服装・靴でお越しください。
 申込先 3月9日(水)朝9時～
 公民館☎(572)5141

公民館・NHK学園高等学校共催
〈講演とシンポジウム〉

若者が希望をもてる社会をつくる!

—「生きぬく力」を支える地域の教育力とは—

講演・コーディネーター

湯浅 誠 (社会活動家、法政大学)

シンポジウム

【市民団体】【高校】【行政機関】【研究者】等
それぞれの立場から出演していただく予定です。

近年、若者が学校から社会への移行過程の困難が、さまざまに指摘され、支援の必要が議論されています。高校からの進学、学校から仕事へのステップ、さらにその後の人生を「生きぬく」ために、どのような社会・地域・教育のあり方を構想していく必要があるのでしょうか。

そこで、今回はそもそもなぜ若者が大人になる過程に困難が生じるのか、学校の課題と地域の役割をコーディネーター、シンポジストとともに考えたいと思います。

とき 3月26日(土) 昼2時～5時
 ところ 公民館 地下ホール 定員 85名
 申込先 3月9日(水)朝9時～
 公民館☎(572)5141

〈憲法講座〉

立憲主義と民主主義の現状

昨年秋、憲法解釈の変更による安全保障関連法が成立しました。法の可否にはさまざまな反応が沸き起こり、若者たちをはじめ多くの国民が憲法を考える契機になりました。憲法の根幹に関わる大きな問題に、国会では十分な議論と審議がなされ、国民の理解が得られたのでしょうか。

今回は、日本の立憲主義と民主主義の現状を学び、憲法の基本原則を反映したこれからの国家、政治、社会のあり方を改めて考えたいと思います。

第1回：3月12日(土) 昼2時～4時

「憲法を使い！～『和』の実現のために～」

講師 田村 理 (専修大学・憲法学)

第2回：3月20日(日) 夕4時～6時

「民主主義の再生を！～新しい政治参加への希望～」

講師 中野 晃一 (上智大学・政治学)

ところ 公民館 3階講座室
 定員 30名(1回からの参加も可能です)
 申込先 公民館☎(572)5141

〈環境講座〉

料理と科学

講師 北川 みどり (管理栄養士)

私たちの生活に身近な「料理」を、簡単な実習を交えながら科学的な視点で考えてみませんか。

1回目は、甘味・酸味・塩味・苦味と同様に味の要素である「うま味」を取り上げます。出汁を例にとり、昆布、かつお節、煮干、市販のだしの素などを味見しながら、その成分を考えます。

2回目は、なぜ食べ物は腐るのか、腐らせないためにはどうすればいいのか、先人の知恵も含めた「保存食」について考えます。

※エプロンと三角巾(頭を覆うもの)をお持ちください。

回	日時	テーマ
1	3月17日	「うま味」ってなんだろう?
2	3月24日	「保存食」ってなんだろう?

いずれも木曜日、時間は朝10時～12時

ところ 公民館 3階実習室
 定員 10名(申込先着順)
 申込先 3月8日(火)朝9時～
 公民館☎(572)5141

—市民防災学習会—

首都直下型地震に備えるチエ

講師 秦 康範 (山梨大学)

東日本大震災から5年、阪神・淡路大震災から21年。大震災や災害への備えを、改めて見直してみませんか。都市における地震では、建物の倒壊と同様に火災をいかに防ぐことができるかが被害の状況を大きく左右するといわれています。私たちができる備えと工夫を、自助・共助の視点から考えます。

また、くにたち地域で外国にルーツのある市民と共に、防災・減災の学びを広げているKUNIBO (くにたち地域外国人のための防災連絡会) の皆さんと一緒に、いざという時の行動や判断を考えるワークも行います。お気軽にご参加ください。

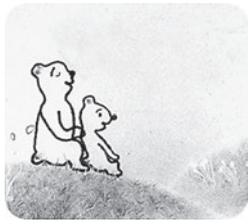
とき 3月27日(日) 朝10時~昼12時
ところ 公民館 地下ホール
定員 50名(当日先着順) ※申し込みは不要です。
呼び掛け くにたち地域外国人のための防災連絡会/
国立会 中の会/公民館利用者連絡会/
公民館交流会準備会

アニメーション作家 岡本忠成の世界

手作りの素朴さが楽しい、独特な作風で知られたアニメーション作家・岡本忠成の作品の中から、童話・民話を題材にした、ユニークな表現と優しい語り口が魅力の名作5本を選んで上映します。

上映作品

- 『さるかに』 1972年 カラー19分
『南無一病息災』 1973年 カラー18分
『あれはだれ?』 1976年 カラー21分
『忘れられた人形』 1981年 カラー14分
『ふらいばんじいさん』 1982年 カラー21分



とき 3月27日(日) 昼2時~3時40分
ところ 公民館 地下ホール
定員 85名(当日先着順)
※申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈ドキュメンタリー映画&トークセッション〉

『妻の病—レビー小体型認知症—』

—あなたの大切な人が認知症になったら—

監督 伊勢真一 2014年 カラー 87分

愛する人が認知症になったとき、あるいは自分が認知症になったとき、一体何が大切なのか……。高知県南国市の豊かな自然に生まれ、支え合うように生きてきた、一人の医師と「レビー小体型認知症」の妻との10年間に及ぶ“いのち”を巡る物語。今回上映する本作品は、一人ひとりに深い問いを投げかけています。

上映終了後は、人間とは何かを深く考えさせられるヒューマンドキュメンタリーを中心に製作する同映画監督・伊勢さんと、認知症を中心に、介護・医療の「現場」でケアに関わる人びとを研究する社会学者・井口さんのトークセッションを行います。

〈トークセッション〉

伊勢 真一 (『妻の病』映画監督)
井口 高志 (奈良女子大学・社会学)

とき 3月18日(金) 昼2時~5時
ところ 公民館 地下ホール
定員 85名(当日先着順)
※申し込みは不要です。ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈図書室のつどい〉

戦争と福祉について
ボクらが考えていること

講師 浅井 春夫・結城 俊哉 (立教大学)

近年「アベノミクス」の傍らで、社会保障費は減少の一途をたどっています。社会的弱者を作りだし、切り捨てる施策に対して、福祉関係者は警鐘を鳴らし続けています。

今回の講師、浅井さんと結城さんが執筆した『戦争と福祉についてボクらが考えていること』も、社会福祉研究者の視点から、弱者を切り捨てる戦争と福祉とが相容れない理由を説明しています。

浅井さんからは、沖縄戦での戦災孤児たちの経験に焦点化してお話ししていただき、結城さんからは、「戦争画家」でもあった藤田嗣治を例にあげながら、21世紀の若者をめぐるワーキングプアと経済的徴兵制の問題についてお話をさせていただきます。

なぜ「戦争」と「福祉」は、相反する関係にあるのか、その理由を、いま一度、立ち止まって考えてみませんか。

とき 3月22日(火) 夜7時~9時
ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)
※申し込みは不要です。ご自由においでください。

〈人権講座〉

セクシュアル・「マイノリティ」とはだれか
—子どもの性の「あいまいさ」と大人ができること—

講師 五十嵐 舞 (一橋大学大学院生・
日本学術振興会特別研究員)
大島 岳 (一橋大学大学院生・精神保健福祉士)

近年、性の多様性や性的マイノリティに関する施策が注目されています。しかし、「性の多様性」とは一体どのようなもののでしょうか。「性」の視点から、生活の中で子どもと接することについて一緒に考えてみませんか。最近の自治体の取り組み事例を見ながら、「ふつう」と思われている「性」を見つめ直し、性的マイノリティだけではなく、誰もが生きやすい社会について話し合ってみたいと思います。どなたでもお気軽にご参加ください。

とき 3月25日(金)夜7時～9時
ところ 公民館 3階講座室 定員 25名
申込先 3月10日(木)朝9時～
公民館☎(572) 5 1 4 1
メール a20.kunitachi.kominkan@jcom.zaq.ne.jp
協賛 一橋大学男女共同参画推進室

〈男性の料理入門 春休み特別企画〉

子どもとつくる
みんなの好きなグラタン

春休みのお昼ご飯を、お父さん(おじいさん)と一緒に作ってみよう!

グラタンは難しそうですが、ちょっとしたポイントで簡単に作れる料理です。

その他、パンを添え、サラダやデザートも作ります。料理が苦手な男性や男の子も大歓迎!

講師 北川 みどり(管理栄養士)

とき 4月2日(土)朝10時～昼1時
集合 福祉会館 3階料理講習室
定員 親子8組(おじいさんも可)(申込先着順)
費用 一組(子ども1人まで)1,200円
(子ども2人まで)1,400円
(子ども3人まで)1,600円



3月25日(金)までに公民館へお支払いください(受付時間:月曜日以外の朝9時～夕5時)。当日払いはできません。食材購入後のキャンセルは実費をご負担していただきます。

持ち物 エプロン、三角巾(タオル可)、筆記用具 ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)、ふきん(台ふき用、皿ふき用)
申込先 3月11日(金)朝9時～
公民館☎(572) 5 1 4 1

〈近現代史講座④〉

トランスナショナル
日韓関係史

—文化/市民交流から見た日本と韓国—

講師 クォン ヨンソク(一橋大学)

近現代史講座4回目は、民間レベルにおける日韓の文化、市民交流などを研究されているクォン ヨンソクさんを講師にお招きします。日韓両国は2015年に国交正常化50周年を迎えましたが、近年は、政治レベルでの緊張が、国民感情にまで影響を及ぼす事態に陥っています。民間のさまざまな交流をとおり、国家間の関係からは見えてこない両国の姿を探ります。

とき 3月24日(木)夜7時～9時
ところ 公民館 3階講座室 定員 30名
申込先 3月10日(木)朝9時～
公民館☎(572) 5 1 4 1

版画をつくってみよう!

—プレス機体験ワークショップ—

プレス機を使って、本格的な版画を体験してみませんか? 紙の版(ドライポイントプレート)とプレス機を使って版画を作ります。紙の版に、線を描いたり、切ったり、はがしたりして、インクを詰めて刷ると、銅版画のような作品ができて上がります。

講師 山本 佳奈枝(版画家)

さかた きよこ(版画家)

タダ ジュン(イラストレーター・版画家)

とき 4月3日(日)昼1時～4時(受付は3時まで)
ところ 公民館 1階市民交流ロビー
対象・定員 30名程度(当日先着順・入替制)
材料費 200円
持ち物 エプロン(よごれてもよい服装)、
ハガキサイズぐらいの下絵(なくても可)

※所要時間は1時間程度です。事前申し込み不要。ただし、定員を超えた場合は、締め切らせていただきます。

同時開催!

「はじめての銅版画」展

創作講座「はじめての銅版画—Etching Work Shop—」(1月～全4回で実施)の作品展を行います。一人ひとり個性豊かな作品ができました。ぜひ見に来てください!

とき 3月29日(火)～4月3日(日)夕5時まで
ところ 公民館 1階市民交流ロビー
問合せ 公民館☎(572) 5 1 4 1

〈環境講座〉

動物の言い分

～都市生活と野生動物～

講師 ^{たかつき}高槻 ^{せいき}成紀 (麻布大学いのちの博物館)

最近、シカの増加やイノシシの被害について、新聞やテレビで話題にあがります。また都市でもタヌキがいたり、ハクビシンに迷惑していることもあるようです。もし、こうした野生動物が人にものを言う機会があったら、なんといいでしょう。野生動物を研究してきた高槻さんから「動物目線」で見たらどう見えるのかを伺い、動物のいのちや都市生活者と動物の関係について考えます。

とき 3月26日(土) 昼2時～4時
 ところ 公民館 3階講座室 定員 35名
 申込先 3月10日(木) 朝9時～
 公民館 ☎ (572) 5141

〈図書室のつどい〉

市民活動・社会教育を支える 市民ジャーナリズムの未来

お話し 片岡 了 (『月刊社会教育』編集長)
 江頭 晃子 (『市民活動のひろば』発行委員会)

毎月、近刊図書 of 著者等をお招きしてお話を伺う国立市公民館の「図書室のつどい」。今回は少し趣を変え、半年間の休刊を経て4月号から復刊される全国誌『月刊社会教育』(国土社)と、発行元の事業廃止を乗り越え市民視点を貫き、多摩地域の市民活動をつなげる地域のミニコミ月刊誌『市民活動のひろば』を取り上げます。

草の根の市民の学習や活動を、あくまで市民の視点から伝え、その価値を共有しようとする雑誌・ミニコミには、どのような未来があるのか。市民活動や社会教育を支えてきたジャーナリズムの歴史をふり返し、今後のあり方を考えます。

とき 3月30日(水) 夜7時～9時
 ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)
 ※申し込みは不要です。自由においでください。

公民館運営審議会報告

2月9日(火) 第16回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名が出席。傍聴6名。

前回の議事録確認

教育長との意見交換

館長人事について。人事異動の際はこれまで同様、公運審の意見を聞いて頂きたい旨を教育長に伝える。後日、各委員の意見を要望書にまとめ提出する。

協議事項

- 諮問「国立市公民館の事業評価のあり方について」。諮問を更に掘り下げて検討。評価の読み手を①公民館職員②行政管理者③市民・公民館利用者の三者とし、三つの小委員会を設ける。

報告事項

- 公民館だより編集研究委員会 2月号につき、事業案内もレイアウトに工夫が見られ目を引いた。
- 社会教育委員の会 前回に続き、各委員自身の活動背景を述べ合い、意見交換。
- 東京都公民館連絡協議会 1月30日(土) 狛江市にて第2回研修会を実施。
- 社会教育学習会

第2回社会教育学習会が3月15日(火)に決定。講師は佐藤一子氏(東大名誉教授)。テーマは「学びの自由と民主主義のいま」。

次回定例会は3月8日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(今村)

ひろば

(8ページにもあります)



水泳会員募集 アクアクラブ

運動不足の方、健康な身体づくりに水泳を始めてみませんか。初心者～上級者、泳力別にコーチの指導を受けて泳ぎます。男女問いません。体験可
 日時 毎週金曜日 朝10時～12時
 場所 総合体育館 室内プール
 連絡先 峰岸(572) 4301

スポーツ吹矢始めませんか

何か趣味を持ちたいと思ってるあなたへ。くにたち吹矢35支部スポーツ吹矢は、静かなエクササイズと言われ、無理なく続けられます。きて、みて、吹いて下さい。
 日時 毎週火曜日 夜6時～
 場所 総合体育館
 連絡先 青木(090)(2308) 4035

ターゲットバードゴルフご紹介

ゴルフのウェッジクラブ一本でコースを廻るゴルフをミニ化したニュースポーツです。ゴルフ経験者は勿論、初心者も楽しめる競技です。体験コーナー開催中です。
 日時 水曜朝9時、木曜昼12時
 場所 谷保第三公園 野球場
 連絡先 岡田(575) 1358

デジタル写楽 写真発表会

デジタル写楽の年に一度の写真展です。会員一同一生懸命撮りました。興味のある方はぜひ高覧下さい。ただ今、会では会員を募集しています。
 日時 3月8日(火)～3月13日(日)
 場所 公民館 市民交流ロビー
 連絡先 北原(572) 8242

かよう会展へのお誘い

公民館で毎日曜日午後、人体クロッキーをしています。活動の成果を各人の自由な作品で発表します。御高覧下さい。
 日時 3月15日(火)～3月20日(日)
 場所 公民館 市民交流ロビー
 連絡先 長田(42)(326) 0821

くにたち国際友好会 WING

スリランカにインタンとして三ヶ月滞在して来た一橋大学清田創介氏と留学生クマラ氏にスリランカの文化、産業、経済、日本との関わり等紹介してもらいます。
 日時 3月17日(木)夜6時半～
 場所 一橋大学 国際交流会館
 連絡先 和田(090)(3497) 2110

住基ネット裁判がすべて終わりました《報告集会》

司法が地方自治の大切さを認め判決を清水勉弁護士が語ります。主催・住基ネットも共通番号もいらない！くにたちの会。資料500円
 日時 3月19日(土)夜7時～9時
 場所 商協ビル2階さくらホール
 連絡先 館野(070)(5072) 2145

今月の公民館 (3月、4月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 12日(土) 昼～「立憲主義と民主主義の現状」
- 13日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
「幼児も楽しめる『安心安全』科学実験遊び!!」
- 15日(火) 夜*社会教育学習会
「学びの自由と民主主義のいま」
- 17日(木) 朝～「料理と科学」
- 18日(金) 昼*『妻の病—レビー小体型認知症—』上映
&トークセッション
- 19日(土) 昼 「グローバル経済とイスラーム過激派の
台頭—チュニジア」
- 20日(日) 朝 パラスポーツ体験講座
「ボッチャを楽しもう！」
- 22日(火) 夜*図書室のつどい
「戦争と福祉について
ボくらが考えていること」
- 24日(木) 夜 「トランスナショナル日韓関係史
—文化/市民交流から見た日本と韓国—」
- 25日(金) 夜 「セクシュアル・『マイノリティ』
とはだれか」
- 26日(土) 昼 「動物の言い分—都市生活と野生動物」
昼 「若者が希望をもてる社会をつくる！
—『生きぬく力』を支える地域の教育力とは—」
- 27日(日) 朝*市民防災学習会
「首都直下型地震に備えるチエ」
昼*シネマボックス公民館映画会
「アニメーション作家岡本忠成の世界」
- 29日(火) ～*「はじめての銅版画」展
- 30日(水) 夜*図書室のつどい
「市民活動・社会教育を支える
市民ジャーナリズムの未来」
- 4月2日(土) 朝 男性の料理入門
「子どもとつくるみんなの好きなグラタン」
- 3日(日) 昼*「版画をつくってみよう！
—プレス機体験ワークショップ—」

ひろば

(7ページにもあります)



マトリョーシカの会コンサート

今回のゲストは歌手の山之内重美さんです。ゲスト演奏の他、参加者全員でロシアの歌を歌います。見やすいカナ付き楽譜があります。資料代500円。

日時 3月20日(日) 昼3時～4時半
場所 公民館 地下ホール
連絡先 大貫(572) 5214

硬式テニス春季大会

男単・複A B・女単・複A B・男・女壮年複・家族混合・男女小学生単。詳細はホームページ参照。締切3月10日(木)。申込先 サンライズ(580) 2441

日時 4月2日(土)～6月19日(日)
場所 広場コート
連絡先 竹延(574) 7963

電力自由化前、節電エコの知恵

身近なもので工夫してできる節電やエコアイデアと電力自由化で家庭で電力会社を選ぶ際のポイント等。参加費お茶付500円/主催ワーカーズ・まちの縁がわ国立

日時 3月24日(木) 昼3時～

場所 かふえ カサムシカ
連絡先 芝野(080-5878) 2364

公民館図書室

休室のおしらせ

3月14日(月) から17日(木) まで
本の点検・整理のため休室します。

*3/15～3/17の間、新聞は朝9時～夕方5時の間、閲覧できます。

〈サークル訪問2016〉
車いすダンス愛好会

「ジューピター」

今回、「車いすダンス」という初めて見る言葉に、車いすでどうやってダンスをするのだろうか？という素朴な疑問が生じ、訪問させてもらうことにした。

会場は多摩障害者スポーツセンター。いつもは普通の体育館が、車いすダンスの時は舞踏会会場に早変わり。ダンス音楽に合わせて、会員の皆さんが自在に車いすを操り、ホールで「舞っていた」。車輪で移動できるので、歩いてステップを踏むよりはるかに動きが優雅でスムーズに見える。

基本は社交ダンスとほぼ同じ。車いすの「ウィールチェア」の人と健常者の「スタンディング」の人がペアになり、スタンディングの人がリードする。動きやステップも社交ダンスとほぼ同じなので、社交ダンスと掛け持ち、または経験者という人も多い。

「素敵な音楽に乗って、みんなが仲良く楽しく踊りたい」と、会の代表の笹原あい子さん。ダンスだけでなく、仲間と会っておしゃべりしたり、ランチをしたりするのも楽しみの一つだそう。

車いす、特に重い障がいを持つ

ている人たちは運動機能の個人差が大きい。それでも、みんなが無理なく楽しく活動できるよう心がけている。

電動車いすで参加している人もいる。友人の勧めで始めた当初は、みんなの動きや音楽に合わせるのが大変だったが、今は「楽しくて仕方ない！」と、文字盤を使って話してくれた。

重い障がいがある人でもダンスが楽しめる場を提供していきたい、というのが会の方針。会員は20人程、そのうち8人が車いす使用者だそう。現在会員募集中。仲間と共に、優雅に楽しく車いすダンスを踊りませんか？

月2回、第1、3木曜日

連絡先 伊東(575) 7231

〈文・写真〉 龍野瑤子



息もぴったり！